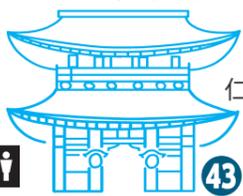


谷汲山 華嚴寺



巨大なわらじが掛かった仁王門。毎年2月の節分には4mの赤鬼が立つ。この赤鬼のまたをくぐると厄除けになるそう。



みまつ土産物店 43

富岡屋 1

万蕾 2

井上商店 3

えのきや 4

もみじや 5

宮本屋 6

八王子神社 6

宮本屋 6

天恵の里 7

水谷美術 8

大燈籠

谷汲堂 9

狸小屋 33

ほていや 10

谷汲堂 9

長谷川商店 25

もち福 21

萬屋 24

神山商店 23

髪かざりや 22

あさの 19

高正 18

IDOL 13

水月亭 15

えびや 41

海老屋 40

やまと 39

大樹屋 38

三樹屋 37

松本屋 36

松屋 35

石原商店 34

狸小屋 33

あうん坊 32

二葉屋 31

小松屋茶舗 30

長谷川商店 25

菊石谷汲 29

万寿屋 28

水谷美術 27

末広屋 26

谷汲堂 9

長谷川商店 25

もち福 21

萬屋 24

神山商店 23

髪かざりや 22

あさの 19

高正 18

谷汲堂 9

長谷川商店 25

もち福 21

萬屋 24

神山商店 23

髪かざりや 22

あさの 19

高正 18

IDOL 13

水月亭 15

お店の裏にまわると、揖斐川町の木、けやきの大木。これは見る価値あるね。

店内にある階段たんすはすごいぞ。

竹林があるよ。

門前ふれあい館

常夜燈が3基残っているよ。昔ここで横蔵からの谷汲街道が合流していたんだよ。

この店の庭に咲きだれ桜は一見の価値あり!

赤い橋がレトロ。

揖斐川町の花はなももの木とウッドデッキがお洒落な公園。

ギフチョウをはじめ、昆虫の標本が何と350種! びっくりの昆虫館だ。

ここは旧名鉄谷汲駅舎。大正時代の赤い電車がレトロだね。モ510形、モ750形。産業考古学会推薦産業遺産認定

巡礼者が旅の道中に使った箸を納めたといわれている箸納め地蔵。7/24には地蔵祭があるよ。

食べる

1 富岡屋 満願そば、うどん、うなぎ丼

2 珈琲 万蕾 ネルドリップ珈琲、白玉だんご

4 えのきや うなぎ丼、でんがく

5 もみじや 木の葉でんがく、うなぎ丼

10 ほていや そば、うどん、秋の栗ご飯

12 ベーカリーハートピア 30種類の手づくりパン

13 喫茶 IDOL ボリューム満点メニュー

15 水月亭 和食、釜めし、うなぎ

20 た・べ・る こだわりのパン

24 萬屋 地元素材の季節料理

28 万寿屋 おでん、木の芽でんがく

30 小松屋茶舗 無農薬の素朴なお茶

31 二葉屋 椎茸丼、椎茸定食、だんご

32 あうん坊 食事処

35 松屋 木の芽でんがく、おでん

38 大樹屋 みそおでん

39 やまと うどん、そば、天ぷら

買う

3 井上商店 満願線香、散華台紙

6 宮本屋 山こんにく、もみじせんべい

7 天恵の里 植木、鉢物、盆栽、富有柿

8 水谷美術 表装、御印譜、木彫

9 谷汲堂 掛軸表装専門店

11 あられの里 あられ、甘味処

16 夢前 農産物直売店

18 (株)高正 銘酒谷汲おどり、満願酒

19 あさの 天日干し減塩梅干、漬物

21 もち福 おはぎ、大福、和菓子

22 髪かざりや 髪かざり

23 神山商店 菊花石、秋の柿や栗

25 長谷川商店 昔なつかしい駄菓子

26 末広屋 秋の焼き利平栗

27 水谷美術 石の専門店

29 菊石谷汲 菊花石

33 狸小屋 骨董品、美術品

34 石原商店 あげまめ、こんにやく

37 三樹屋 名物ういろ

40 海老屋 珈琲、抹茶

41 えびや 五平餅・しょうゆだんご

43 みまつ土産物店 谷汲のお土産(柿ようかんなど)

泊まる

36 松本屋 明治元年創業の料理旅館

【お問い合わせ】 揖斐川町観光プラザ Tel 0585-55-2020 令和7年1月発行



ご本尊のご霊木「えのき」にちなんだ屋号なんだよ。

参道には桜と紅葉が交互に植わってるんだ。春と秋はまるでトンネル。最高だ!

紅葉がきれいだよ。



毎年2月には盆梅展が開かれるよ。

参拝の行き帰りにちょっと寄って一服にはびったり。(観光情報館)

谷汲踊りで実際に使われた「シナイ」が店内に飾られているよ。



巡礼者が旅の道中に使った箸を納めたといわれている箸納め地蔵。7/24には地蔵祭があるよ。



たにやん

たにやんとぐみっちの なぜなに谷汲山

1 ご本尊は大きくて、七尺五寸もあるんだ！

- ぐみっち 華嚴寺の御本尊の十一面観世音さまって、どんな仏像なの？
- たにやん これは難しい質問だね。実は谷汲の人たちもほとんど見たことが無いんだ。ただ、すごく大きな、立派な仏像だという話は伝わっているね。
- ぐみっち いままで、ずっと大切に仕舞われてきたんだね。
- たにやん そう、この仏像の話をするには、谷汲山華嚴寺のそもそもの由来から話をしなければならぬんだけど、聞きたい？
- ぐみっち 教えて、教えて、たにやんさん。
- たにやん またまた、たにやんさんと来たね。いいでしょう。それではちょっとタイムワープをして約1200年前の東北地方へ行ってみようかね。
- ぐみっち え、何でまた東北まで行っちゃうの？
- たにやん そもそも起こりはね。いまの福島県会津地方の豪族で大口大領という人が、自分の地所に十一面観世音像を建立したいと思い立ったことから始まるんだ。
- ぐみっち 岐阜県谷汲の話が、東北の会津から始まるんだ？
- たにやん そう。で、この大口大領という人が、まず第一にお像を造るための霊木を探しているのね。ある夜、夢の中に一人の童子が現れてある場所を指し示したので、そこへ行ってみると大きな榎があったので、これこそお告げの木だと、さっそくこれを譲り受けて、京都へ運ぶんだ。
- ぐみっち ひゃー、今度は東北から京都へ行くの？
- たにやん これで驚いちゃいけないよ。まだまだ先があるんだから。さて、大口大領はこの榎を、当時京都で有名な彫り物師に頼んで十一面観世音像を作ってもらったんだ。大きな像で七尺五寸というから、約2メートル半くらいの高さになるね。
- ぐみっち すごい、見上げるような大きさだね。
- たにやん そう。で、ここからがまたまた面白いんだけど、どうしてこのお像が谷汲に来たのかという説が二つあるんだ。聞きたい？
- ぐみっち もちろんよ。もったいつけないで、ねえー、早く教えて。

2 どうしても動こうとしない観音様

- たにやん えへん。それはね、一つは、出来上がった像を会津へ運ぼうと、台車に乗せて美濃国の山間まで来ると急に動かなくなって、押しても引いても動く気配がない。しかも像が何倍にも重くなっているんだ。それでね、そうかこれは、きっとこの像がここに留まりたいということなのかと、この地を永住の地と決めたという説だ。
- ぐみっち へー、それでもう一つの説というのは、どういうの？
- たにやん まま、そうせかさないで。もう一つはね、京都で仏師に頼んで彫り上げて貰ったところ、この観音様がね。突然動きだし仏師の差し出す笠や履き物、杖を自分でつけて、一人で歩き出したというんだ。
- ぐみっち うわー。まるでドラマか、映画の世界だね。すごいすごい。
- たにやん とにかく、どんどん歩いて美濃の国の赤坂を過ぎたところで、「遠い奥州へは行かない。この先の山中に有縁の地があるので、そこで衆生を済度する」といって、丁度いまの華嚴寺の南にある丸山まで来たところで一歩も動かなくなったというんだ。

3 谷汲山のいわれ

- ぐみっち その観音様と谷汲は、よほど強い縁があったということなんだね。
- たにやん そうだろうね。いずれにしろ大領はここが結縁の地と思い、尊像を安置することにしたんだ。ちょうど、この山中で修行をしていた豊然上人という聖(ひじり)が住んでいたの、その上人と力を合わせて山谷を切り開き、堂宇を建てていると近くの岩穴から油がこんこんと湧き出して来たんだ。だから、それより後は燈明に困ることが無かったというんだね。これが開山の年、いまから約1200年前の延暦十七年(798年)、桓武天皇の時だったんだよ。
- ぐみっち わかった!谷汲山という名前はそこから来たんだね。
- たにやん その通り。それとこの尊像に華嚴経が書写されていたので華嚴寺と呼ばれるようになったんだね。で、この話をお聞きになった醍醐天皇が勅願を出されてね、谷汲山の山号と華嚴寺の扁額を賜った、とこういうわけなんだ。

4 西国33ヶ所の巡礼とは

- ぐみっち よーわかりました、たにやんさん。でも、もう一つ教えて。33ヶ所の巡礼で谷汲山は満願寺っていうけど、これはどういう意味。
- たにやん よくぞ聞いてくれました。これこそ私の一番話したいところ。まずは33ヶ所の巡礼とはなんぞやという話からいきましようかね。
- ぐみっち うわー、すっごく取った言い方ね。でもいいわよ、はい、ちゃんと聞きますよ。
- たにやん 西国33ヶ所巡礼の始まりは、大和の長谷寺、徳道上人といわれているんだ。どうして33ヶ所かというのね。観世音菩薩は33の違った姿で現れて、人々を救うと法華経に記されている。だからこの尊い数字と同じだけのお寺を回って身を清め、極楽浄土の道を探すというのが巡礼の旅なんだ。
- ぐみっち 33という数字にはそういう意味があったんだ。



5 満願のあかし、笈擧堂(おいづらどう)

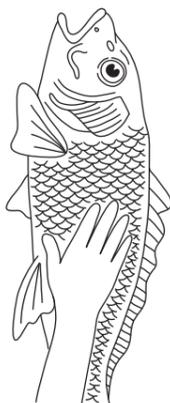
- たにやん そう、それでね、養老二年(718年)のある夜、道徳上人は夢の中で、人々を災いから救う為に33の観音霊場を広めるようにと閻魔大王よりお告げを受けて、巡礼の旅をしたのがいまの西国33ヶ所のはじまりといわれているんだ。でも、その後一度途絶えてしまうんだけど、約270年後、花山法皇によって再興されるんだ。花山法皇は33ヶ所の観音霊場を巡幸され最後に当山にいらして、それまで身につけていた笈擧(おいづら)を満願の印に奉納したといわれており、それ以来、谷汲へ来た人は満願のお礼に、笈擧を奉納することが慣例となったんだ。だから、谷汲山の本堂の裏にある笈擧堂にはもう何千、何万という笈擧がいっぱいなんだよ。
- ぐみっち うん、ものすごく古いものから、新しいものまで、びっくりするくらいたくさん置いてあるよね。

6 幾多の戦火をかくくり復興した華嚴寺

- ぐみっち それにしても、長い間にこのお寺もいろいろ大変な目にあっているんだね。
- たにやん そうだよ。鎌倉、室町、戦国と戦乱の時代が続くだろう。建武元年(1330年)には、新田一族の堀口貞満が当山にたてこもり、その戦いで兵火を受け、本堂だけがかろうじて残ったといわれているし、さらにその後、正中元年から文明7年にかけても兵火でまったくの荒廃に帰してしまうんだ。でもこの時も薩摩国鹿児島県の慈眼寺の住職道破拾穀上人が、霊夢を感じて再建したといわれている。でも、残念ながらその後も幾度かの戦いなどでさびれ、打ち捨てられたようになってしまっただけで、明治8年に豪泰法印が再建の願主となって、明治12年に再建され、現在のようになったんだよ。

7 青銅の鯉

- ぐみっち ふ〜ん。よくわかったわ。それと最後にもう一つ。本堂の向拝の両側の柱にピッカピカに光った青銅の鯉が取り付けられてあるでしょう。あれはいったい何？
- たにやん ぐみっちも、なかなか観察が鋭いじゃないか。うん、あれは「精進落としの鯉」といってね。33ヶ所の巡礼をして満願のお参りをした後であれに触ってなめると精進落としとなるといわれているんだ。ちょっと面白い習慣だろう。さあ、谷汲山の由来はだいたいわかったよね。折角だから華嚴寺にお参りをしていこうか。
- ぐみっち うん、そうしよう、そうしよう。そして後で門前街に行っておいしいものを食べようよ。え〜と、鮎の塩焼きに、しいたけご飯。うなぎに、満願そば、それから木の芽田楽に…。
- たにやん おいおい、そんなに食べられるのかい。それと、そうそう、お土産も良いね。こんにゃくや生しいたけ、お茶に、自家製のお漬物なんかがいいね。さあ、まずはお参りに行こう。



谷汲イベントカレンダー

1月	初詣
2月節分	節分祭
2月上旬~3月上旬	たにぐみ盆梅展、雛人形展
2月18日	豊年祈願祭(谷汲踊)
4月上旬	さくらまつり(谷汲踊)
11月上旬(予定)	谷汲もみじまつり(谷汲踊)
11月中旬(予定)	横蔵寺もみじまつり
毎月18日	谷汲山十八日まつり